

科目ナンバー：300 西洋史学特殊講義  
管理部署：文学部  
授業コード 22286506  
履修期：2020 年秋学期  
担当者：繁沢敦子

## 核時代を生きる Living in the Nuclear Age

概要と目的：本コースは、核時代として知られる、原子爆弾が初めて使用された 1945 年夏以降に現れた一つの歴史上の時代について検討するものである。米国は 20 世紀、超大国としての地位を確立し、政治や経済、文化など、様々な側面において世界を席卷した。原子爆弾を生んだ科学的、技術的進展は、米国では 20 世紀を象徴する「功績」とみなされている。原子力の平和的利用が推進され、多くの国々で原発が導入される一方で、核兵器開発競争の激化によって人類が破滅するに十分な数の核弾頭が製造されるに至った。このように、原子力の複雑さやそれに派生する問題によって、核時代はそれ以前のどの時代とも大きく隔てられるものとなっている。しかし、そこに生きる私たちは、その時代に生きていることの意味を理解しているだろうか？本コースでは、核時代の幕開け前から現在まで、20 世紀を中心とした米国史における核の言説や表象を検証する。履修者は核兵器や原子力の問題の歴史や背景を知り、どのようにそれらが米国内で受容されてきたか、そして国際的に影響を与えてきたかを理解することになる。

目標：1) 履修者は核をめぐる歴史的事実についての幅広い知識を有するようになる。2) 履修者はその学問領域に関する代表的な歴史学派について説明し、批判することができるようになる。3) 履修者は記述と口頭で、自分の考えを明確に、かつ整合性のある形にまとめ、表現できるようになる。

### 授業計画:

<b>第 1 回</b> コース紹介、今後の講義についての説明 (introduction to the <b>Session 1</b> course)	次週のことを事前配布します (to be assigned)
<b>第 2 回</b> 新しい元素の発見 (Discovery of New Elements) <b>Session 2</b>	次週のことを事前配布します (to be assigned)
<b>第 3 回</b> 原子の発見とマンハッタン計画の立ち上げ (Discovery of the Atom <b>Session 3</b> and launching of the Manhattan Project)	次週のことを事前配布します (to be assigned)
<b>第 4 回</b> 原爆投下の決定と日本の降伏 (Decision to Use the Atomic Bomb and <b>Session 4</b> Japan's Surrender)	次週のことを事前配布します (to be assigned)
<b>第 5 回</b> 原爆はどのように世界に知らされたか (The Atomic Bomb <b>Session 5</b> Presented to the World)	次週のことを事前配布します (to be assigned)
<b>第 6 回</b> 封印された原爆の事実 (The Atomic Bomb Suppressed) <b>Session 6</b>	次週のことを事前配布します (to be assigned)
<b>第 7 回</b> 公式見解の形成 (Formation of the Official Narrative) <b>Session 7</b>	次週のことを事前配布します (to be assigned)

<b>第 8 回</b> <b>Session 8</b>	平和のための原子力 (Atoms for Peace)	次週のことを事前配布します (to be assigned)
<b>第 9 回</b> <b>Session 9</b>	冷戦期の米国文化 (American Cold War Culture)	次週のことを事前配布します (to be assigned)
<b>第 10 回</b> <b>Session 10</b>	反核運動の台頭 (The rise of Anti-nuclear Movement)	次週のことを事前配布します (to be assigned)
<b>第 11 回</b> <b>Session 11</b>	修正主義史観の台頭 (The Rise of the revisionist views)	次週のことを事前配布します (to be assigned)
<b>第 12 回</b> <b>Session 12</b>	映画鑑賞 (米国における核の受容について) (watching a film)	次週のことを事前配布します (to be assigned)
<b>第 13 回</b> <b>Session 13</b>	国際的な文脈における核問題 (Nuclear weapons in an international context)	
<b>第 14 回</b> <b>Session 14</b>	まとめ、講義を振り返って (wrapping up)	
<b>授業外</b> <b>学習</b> <b>Study</b>	毎回、テーマに関する新聞記事や雑誌記事、一次史料文献などを事前に配布する (英文含む)。	
<b>Required outside Class</b>	それを元に、授業冒頭で小テストを実施する。	

**教科書**  
**Required texts** 未定。適宜、資料を配布する。

**参考文献・資料**  
**Reference books** Paul Boyer, *By the Bomb's Early Light*, The University of North Carolina Press, 1994.

**学生による授業評価の方法**  
**Course Evaluation by Students** 授業アンケート

	種別 Type	備考 Note	割合 Percentage	評価基準等 Grading Criteria etc.
<b>成績評価</b> <b>Grading</b>		定期試験に代わるレポート / Term paper to replace the final examination (02)	50 %	
		授業中試験 / In-class examination (03)	25 %	
		その他 / Others (99)	25 %	授業への貢献
	<b>備考 Note</b>	レポートは、Text, Microsoft Word あるいは Mac Pages を使って作成し、日本語の場合、4,000-4,500 字とする。英語の場合は、1,500-2,000 words とする。書式は自由だが、執筆にあたっては、三つ以上の文献を用いること。		

**備考 Note** レポート作成においては学術倫理に則り、適正な方法で資料を使用し、出典の明示を行うこと。剽窃が発覚した場合には、単位を与えることはできません。Please make sure to cite and reference all sources of information used in completing the term-end paper. It is considered plagiarism if you copy from source materials or if you merely rework source materials. Those who are engaged in the action will not pass the course.